

## 1 米戦闘機「コルセア」の米国への返還について

### (1) 返還物

1945年（昭和20年）3月18日に佐伯湾に墜落したアメリカ艦上戦闘機「F4U-1D コルセア」のエンジン及びプロペラ部分（968 kg）並びに主翼の一部（320 kg）。

平成7年に歴進会により海から引き上げられ、歴進会会員の河野豊市議会議員によって保管された後、平成18年に佐伯市平和祈念館「やわらぎ」に寄贈され、戦争遺品として展示されていたもの。

### (2) 経緯

平成27年8月、アメリカ国立太平洋戦争博物館の渉外交渉駐在員をしていた岸田芳郎氏を通じて、ニューヨーク市のイントレピッド海上航空宇宙博物館がこれらの部品の返還を希望している意向が判明した。この博物館は、アメリカ海軍の航空母艦イントレピッドが退役後にそのまま博物館として公開されているものである。

本市は、これらの部品の返還が本市とニューヨーク市、ひいては日本、アメリカ両国の友好を深め、平和の象徴として展示されることを願ってアメリカ国防省海軍歴史遺産管理局に寄贈することを決定した。

平成28年3月、佐伯市、アメリカ国防省海軍歴史遺産管理局、イントレピッド海上航空宇宙博物館の3者で調整が整い、これらの部品を返還することとなった。

平成28年3月6日、佐伯市平和祈念館「やわらぎ」において返還式（部品の出発式）を開催した。返還式には、在福岡アメリカ合衆国領事館主席領事、アメリカ海軍佐世保基地司令官、外務省北米局企画官を始め、多数の関係者が出席し、部品の出発を見送った。

平成28年3月28日、アメリカ合衆国ニューヨーク市のイントレピッド海上航空宇宙博物館において、日本側から河野豊市議会議員、岸田芳郎氏、歴進会会員及び在ニューヨーク日本国総領事館領事並びにイントレピッド海上航空宇宙博物館最高責任者及び役員出席の下、部品の引渡式が開催された。

## 2 出征寄せ書き日本国旗の返還について

### (1) 返還物

出征兵士を激励する寄せ書きがある日本国国旗。（横70 cm 縦65 cm）

「大分県立三重高等女学校」や「大野拓殖農林学校」などの記載がある。

### (2) 経緯

米戦闘機「コルセア」が米国へ返還されることが米国で報道されたことにより、このたび返還された出征寄せ書き日本国旗の米国の持ち主から、その知人を通して岸田芳郎氏に連絡が入った。米国の持ち主は、イリノイ州シカゴ市のドミニック・カイロ氏（26歳）である。同氏の父親は、歴史物のコレクターで古物市でこの国旗を見つけ、日本軍兵士が

身につけていたであろう国旗を売り買いの対象物にするべきではないとの考えから、購入保存し、いつか家族のもとへ返還したいと考え、長い間、米国内の知識人などに調査をお願いしていたが、本来の持ち主を特定できないまま今日に至っていたものとのことである。

岸田芳郎氏とドミニック・カイロ氏との間で交渉がなされ、平成 28 年 3 月 28 日、アメリカ合衆国ニューヨーク市のイントレピッド海上航空宇宙博物館において、行われた引渡式にドミニックカイロ氏が同国旗を持参していただき、その思いを河野豊市議員らが伺った上で預かり帰国したものである。

### (3) 今後の対応

佐伯市平和祈念館「やわらぎ」に公開展示するとともに、本来の持ち主に関する情報を募集し、持ち主またはその遺族等が判明した場合には、その方に返還する予定である。

